(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2022-161876
(P2022-161876A)
(43)公開日　令和4年10月21日(2022.10.21)

(51)国際特許分類			FI		テーマコード（参考）
Ａ６１Ｋ	*8/81*	*(2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/81	４Ｃ０８３
Ａ６１Ｋ	*8/34*	*(2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/34	
Ａ６１Ｋ	*8/25*	*(2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/25	
Ａ６１Ｑ	*19/00*	*(2006.01)*	Ａ６１Ｑ	19/00	

審査請求　未請求　請求項の数　10　ＯＬ　（全20頁）

(21)出願番号　特願2022-63816(P2022-63816)
(22)出願日　令和4年4月7日(2022.4.7)
(31)優先権主張番号　特願2021-66097(P2021-66097)
(32)優先日　令和3年4月8日(2021.4.8)
(33)優先権主張国・地域又は機関
日本国(JP)

(71)出願人　000000918
花王株式会社
東京都中央区日本橋茅場町１丁目１４番１０号
(74)代理人　100110928
弁理士　速水 進治
(72)発明者　阿部 慶太
東京都墨田区文花２－１－３ 花王株式会社研究所内
(72)発明者　友國 敦史
東京都墨田区文花２－１－３ 花王株式会社研究所内

Ｆターム（参考）　4C083　AB032 AB171 AB172 AC012
AC101 AC102 AC121 A
最終頁に続く

(54)【発明の名称】　シート状化粧料

(57)【要約】
【課題】保液性および組成物の肌への転写性に優れるとともに、肌のべたつきを抑制し、肌のさらさら感の持続性を優れたものとするシート状化粧料を提供する。
【解決手段】成分（Ａ）：エタノール　０．１質量%以上２０質量%以下、成分（Ｂ）：水溶性高分子、成分（Ｃ）：比表面積が５０m^2／ｇ以上のシリカ　１質量%以上２０質量%以下、および、水を含有する液状組成物を織布または不織布に含浸させた、シート状化粧料。
【選択図】なし

【特許請求の範囲】
【請求項１】
以下の成分（Ａ）～（Ｃ）および水を含有する液状組成物を織布または不織布に含浸させた、シート状化粧料。
（Ａ）エタノール　０．１質量％以上２０質量％以下
（Ｂ）水溶性高分子
（Ｃ）比表面積が５０ｍ^2／ｇ以上のシリカ　１質量％以上２０質量％以下
【請求項２】
前記液状組成物中の前記成分（Ｂ）の含有量が、前記液状組成物全体に対して０．００１質量％以上１質量％以下である、請求項１に記載のシート状化粧料。
【請求項３】
前記成分（Ｂ）がアニオン性高分子を含む、請求項１または２に記載のシート状化粧料。
【請求項４】
前記成分（Ｂ）が、カルボキシビニルポリマーおよびアクリレーツ／アクリル酸アルキル（Ｃ１０－３０）クロスポリマーからなる群から選択される少なくとも１種を含む、請求項１乃至３いずれか１項に記載のシート状化粧料。
【請求項５】
前記液状組成物中の前記成分（Ｂ）の含有量に対する前記成分（Ｃ）の含有量の質量比（（Ｃ）／（Ｂ））が１００以上１８００以下である、請求項１乃至４いずれか１項に記載のシート状化粧料。
【請求項６】
前記液状組成物中の前記成分（Ａ）の含有量に対する前記成分（Ｃ）の含有量の質量比（（Ｃ）／（Ａ））が０．１以上２０以下である、請求項１乃至５いずれか１項に記載のシート状化粧料。
【請求項７】
以下の成分（Ｄ）をさらに含む、請求項１乃至６いずれか１項に記載のシート状化粧料。
（Ｄ）ポリオール　０．１質量％以上２０％質量％以下
【請求項８】
当該シート状化粧料が前記液状組成物を前記不織布に含浸させたものであり、
前記不織布が親水性繊維を含む混合繊維からなる、請求項１乃至７いずれか１項に記載のシート状化粧料。
【請求項９】
請求項１乃至８いずれか１項に記載のシート状化粧料からなるシート状洗浄材。
【請求項１０】
請求項１乃至８いずれか１項に記載のシート状化粧料が包装材内に収容されている、包装体。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、シート状化粧料に関する。
【背景技術】
【０００２】
シート状の化粧料に関する技術として、特許文献１（特開２０１３－１１６８６８号公報）に記載のものがある。同文献には、ＨＬＢ値が４～７であり、２５℃で液状で、グリセリル基を有する非イオン性界面活性剤、粉体、ＨＬＢ値が１２～１７である非イオン性界面活性剤および水を含有する液状組成物を、シート状基材に含浸させてなるシート状化粧料について記載されており、かかるシート状化粧料は、使用時に、適度な清涼感と肌にかさつきのないさらさら感を付与し、べたつきを抑え、さらさら感の持続性に優れるもの

であり、且つ、発汗後の肌のさらさら感の持続性に優れているとされている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２０１３－１１６８６８号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
本発明者らは、シート状化粧料の使いやすさおよび使用感をさらに向上すべく検討した。その結果、前述の技術においては、シート状化粧料の保液性および含浸させた組成物の肌への転写性に優れるとともに、肌のべたつきを抑制し、肌のさらさら感の持続性を優れたものとするという点で改善の余地があることが明らかになった。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本発明によれば、
以下の成分（Ａ）～（Ｃ）および水を含有する液状組成物を織布または不織布に含浸させた、シート状化粧料が提供される。
（Ａ）エタノール　０．１質量％以上２０質量％以下
（Ｂ）水溶性高分子
（Ｃ）比表面積が５０ｍ^2／ｇ以上のシリカ　１質量％以上２０質量％以下
【０００６】
本発明によれば、
前記本発明におけるシート状化粧料からなるシート状洗浄材が提供される。
【０００７】
また、本発明によれば、
前記本発明におけるシート状化粧料が包装材内に収容されている、包装体が提供される。
【発明の効果】
【０００８】
本発明によれば、保液性および組成物の肌への転写性に優れるとともに、肌のべたつきを抑制し、肌のさらさら感の持続性を優れたものとするシート状化粧料を提供することができる。
【発明を実施するための形態】
【０００９】
以下、本発明の実施形態について説明する。なお、組成物に含まれる各成分はいずれも単独でまたは２種以上を組み合わせて含むことができる。また、本明細書中、数値範囲を表す「～」は、断りがなければ、以上から以下を表し、上限値および下限値をいずれも含む。
【００１０】
（シート状化粧料）
本実施形態において、以下の成分（Ａ）～（Ｃ）および水を含有する液状組成物を織布または不織布に含浸させたものである。
（Ａ）エタノール　０．１質量％以上２０質量％以下
（Ｂ）水溶性高分子
（Ｃ）比表面積が５０ｍ^2／ｇ以上のシリカ　１質量％以上２０質量％以下
【００１１】
本発明者らは、成分（Ａ）～（Ｃ）を含み、成分（Ａ）および（Ｃ）の量が調整された液状化粧料を織布または不織布に含浸させてシート状化粧料とすることにより、シート状化粧料の使いやすさおよび肌への使用感を優れたものとすることができることを新たに見出した。

さらに具体的には、本実施形態におけるシート状化粧料で肌を清拭することにより、たとえば、シートの液保持性および肌への化粧料中の粉体の転写性の点で使いやすさに優れるとともに、肌のべたつき除去効果、および、肌のさらさら感の持続性を優れたものとすることができる。

また、本実施形態によれば、たとえば、化粧が施された肌をシート状化粧料で清拭することにより、皮脂や崩れたメイクを効果的に除去しつつ、メイクをキープし清潔感のある肌を維持することも可能となる。たとえば、皮脂によるメイクのテカリを効果的に抑制することができる。

以下、各構成をさらに具体的に説明する。

【００１２】

（液状組成物）

液状組成物は、皮膚洗浄用化粧料組成物等の化粧料組成物であってもよい。

【００１３】

（成分（Ａ））

成分（Ａ）はエタノールである。

液状組成物中の成分（Ａ）の含有量は、肌のべたつきを抑制する観点、および、肌のさらさら感の持続性を高める観点から、０．１質量％以上であり、好ましくは１質量％以上、より好ましくは２質量％以上、さらに好ましくは３質量％以上である。

また、シート状化粧料の保液性（液保持性）を高める観点から、液状組成物中の成分（Ａ）の含有量は、２０質量％以下であり、好ましくは１５質量％以下、より好ましくは１０質量％以下、さらに好ましくは７質量％以下である。

【００１４】

（成分（Ｂ））

成分（Ｂ）は水溶性高分子である。

成分（Ｂ）として、具体的には、水溶性のカチオン性高分子、アニオン性高分子、非イオン性高分子、および、両性または双極性高分子からなる群から選択される１種または２種以上が挙げられる。

【００１５】

カチオン性高分子としては、具体的には、塩化Ｏ－［２－ヒドロキシ－３－（トリメチルアンモニオ）プロピル］基を有するヒドロキシエチルセルロース（ポリクオタニウム－１０）；（ビニルピロリドン－ジメチルアミノメチルエチルメタクリレート共重合体ジエチル硫酸塩（ポリクオタニウム－１１）；塩化メチルビニルイミダゾリウム・ビニルピロリドン共重合体；ポリオクタニウム－８６（ビニルピロリドン、塩化－１－メチル－３－ビニルイミダゾリン、ビニルイミダゾールおよびメタクリル酸の共重合体）等の４級化ポリビニルピロリドン共重合体が挙げられる。

【００１６】

アニオン性高分子としては、具体的には、カルボキシメチルセルロース、カラゲーナン、キサンタンガム、ポリスチレンスルホネート、寒天、ガッチガム、カラヤガム、ペクチン、アルギネート塩、（メタ）アクリル酸もしくはその誘導体の（共）重合体、ヒアルロン酸またはそのアルカリ金属塩が挙げられる。

【００１７】

このうち、（メタ）アクリル酸もしくはその誘導体の（共）重合体としては、ポリアクリル酸、ポリアクリル酸ナトリウム、架橋型ポリアクリル酸、架橋型ポリアクリル酸ナトリウム、アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体、カルボキシビニルポリマー（カルボマー）、アルキル変性カルボキシビニルポリマー、アクリロイルジメチルタウリン又はその塩をモノマー成分とするコポリマー、クロスポリマー、具体的には、（アクリル酸Ｎａ／アクリロイルジメチルタウリンＮａ）コポリマー、（アクリル酸ヒドロキシエチル／アクリロイルジメチルタウリンＮａ）コポリマー、（アクリル酸Ｎａ／アクリロイルジメチルタウリン／ジメチルアクリルアミド）クロスポリマー、（アクリルアミド／アクリル酸アンモニウム）コポリマー、ポリアクリレート－１３、ポリアクリレートクロスポリマ

ー－６等が挙げられる。
【００１８】
（メタ）アクリル酸もしくはその誘導体の（共）重合体の市販品の具体例として、「ＡＱＵＰＥＣ　ＨＶ－５０５Ｅ」（住友精化社製）、「カーボポール９４０」、「カーボポール９４１」、「カーボポール９８０」（以上、Ｌｕｂｒｉｚｏｌ　Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ｍａｔｅｒｉａｌｓ社製）、「シンタレンＫ」、「シンタレンＬ」（以上、３Ｖシグマ社製）等のカルボキシビニルポリマー；
「ＡＱＵＰＥＣ　ＨＶ－５０１ＥＲ」（住友精化社製）、「カーボポール１３４２」、「カーボポールＥＴＤ２０２０」（アクリレーツ／アクリル酸アルキル（Ｃ１０－３０）クロスポリマー）、「カーボポールＵｌｔｒｅｚ２１」（以上、Ｌｕｂｒｉｚｏｌ　Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ｍａｔｅｒｉａｌｓ社製）等のアルキル変性カルボキシビニルポリマー；
「ＳＩＭＵＬＧＥＬ　ＥＧ」（ＳＥＰＰＩＣ社製）等の（アクリル酸Ｎａ／アクリロイルジメチルタウリンＮａ）コポリマー；
「ＳＩＭＵＬＧＥＬ　ＮＳ」、「ＳＥＰＩＮＯＶ　ＥＭＴ　１０」（以上、ＳＥＰＰＩＣ社製）等の（アクリル酸ヒドロキシエチル／アクリロイルジメチルタウリンＮａ）コポリマー；
「ＳＥＰＩＭＡＸ　ＺＥＮ」（ＳＥＰＰＩＣ社製）等のポリアクリレートクロスポリマー－６が挙げられる。
【００１９】
非イオン性高分子としては、具体的には、ポリエチレングリコール、プロピレングリコールアルギネート、ポリアクリルアミド（たとえば、「ＳＥＰＩＧＥＬ　３０５」、ＳＥＰＰＩＣ社製）、ポリ（エチレンオキシド）、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、アミロース、ヒドロキシエチルアミロースおよびこれらの混合物等が挙げられる。
【００２０】
両性または双極性高分子として、具体的には、オクチルアクリルアミド／アクリレート／ブチルアミノエチルメタクリレートコポリマー、ポリクオタニウム－４７、ポリクオタニウム－４３等が挙げられる。
【００２１】
また、成分（Ｂ）が多糖類であってもよい。多糖類としては、中性多糖類が好ましく、セルロースガム、ローカストビーンガム、グァーガム、デンプン、デキストリン、スクレログルカン、キャロブガム、ヒドロキシエチルグァーガム、ヒドロキシエチルセルロース、メチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、エチルセルロース、ヒドロキシメチルセルロースなどが挙げられる。
また、カチオン性多糖類の具体例として、カチオン化セルロース、例えばカチオン化ヒドロキシアルキルセルロースが挙げられる。
【００２２】
シート状化粧料の保液性および液状組成物の肌への転写性のバランスを向上する観点、および、シート状化粧料中の成分（Ｃ）の偏在を抑制する観点から、成分（Ｂ）は、好ましくはアニオン性高分子を含み、より好ましくはアクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体、カルボキシビニルポリマーおよびアクリレーツ／アクリル酸アルキル（Ｃ１０－３０）クロスポリマーからなる群から選択される少なくとも１種を含み、さらに好ましくはカルボキシビニルポリマーおよびアクリレーツ／アクリル酸アルキル（Ｃ１０－３０）クロスポリマーからなる群から選択される少なくとも１種を含む。また、成分（Ｂ）がアクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体およびアクリレーツ／アクリル酸アルキル（Ｃ１０－３０）クロスポリマーからなる群から選択される少なくとも１種を含むことも好ましい。
【００２３】
液状組成物中の成分（Ｂ）の含有量は、シート状化粧料の保液性を向上する観点、および、シート状化粧料中の成分（Ｃ）の偏在を抑制する観点から、液状組成物全体に対して好ましくは０．００１質量％以上であり、より好ましくは０．００３質量％以上、さらに

好ましくは０．００４質量％以上、さらにより好ましくは０．００５質量％以上である。
また、液状組成物の肌への転写性を向上する観点から、液状組成物中の成分（Ｂ）の含有量は、液状組成物全体に対して好ましくは１質量％以下であり、より好ましくは０．１質量％以下、さらに好ましくは０．０５質量％以下、さらにより好ましくは０．０２質量％以下である。

【００２４】

（成分（Ｃ））

成分（Ｃ）はシリカであり、その比表面積が５０ｍ^2／ｇ以上である。
成分（Ｃ）は、具体的には粉体であり、好ましくは球状の粉体である。成分（Ｃ）の具体例として、球状シリカ；メソポーラスシリカ等の多孔質シリカが挙げられる。
また、成分（Ｃ）の粉体の表面は、シート状化粧料の保液性および液状組成物の肌への転写性のバランスを向上する観点から、好ましくは親水性である。表面が親水性のシリカとして、たとえば、表面が疎水化処理されていないシリカが挙げられる。

【００２５】

成分（Ｃ）の比表面積は、肌のさらさら感の持続性を高める観点、および、肌のべたつきを抑制する観点から、５０ｍ^2／ｇ以上であり、好ましくは１００ｍ^2／ｇ以上、より好ましくは１５０ｍ^2／ｇ以上、さらにより好ましくは２００ｍ^2／ｇ以上である。
また、肌のさらさら感の持続性を高める観点から、成分（Ｃ）の比表面積は、好ましくは１５００ｍ^2／ｇ以下、より好ましくは１０００ｍ^2／ｇ以下、さらに好ましくは６００ｍ^2／ｇ以下である。
ここで、成分（Ｃ）の比表面積は、気体吸着法（ＪＩＳ　Ｚ　８８３０：２００１　気体吸着による粉体（固体）の比表面積測定方法）に準拠して測定されるＢＥＴ比表面積である。

【００２６】

成分（Ｃ）の平均粒子径は、肌のさらさら感の持続性を高める観点から、好ましくは０．１μｍ以上であり、より好ましくは１μｍ以上、さらに好ましくは３μｍ以上である。
また、肌のさらさら感の持続性を高める観点、および、肌のべたつきを抑制する観点から、成分（Ｃ）の平均粒子径は、好ましくは３０μｍ以下であり、より好ましくは２０μｍ以下、さらに好ましくは１０μｍ以下である。
ここで、成分（Ｃ）の平均粒子径は、遠心沈降式粒度分布測定法で、ストークスの式から求めた体積による換算値のメジアン径（D_{50}）である。

【００２７】

液状組成物中の成分（Ｃ）の含有量は、液状組成物の肌への転写性を向上する、および、肌のさらさら感の持続性を高める観点から、液状組成物全体に対して１質量％以上であり、好ましくは２質量％以上であり、より好ましくは４質量％以上、さらに好ましくは６質量％以上である。
また、肌の着色を抑制する観点から、液状組成物中の成分（Ｃ）の含有量は、液状組成物全体に対して２０質量％以下であり、好ましくは１５質量％以下であり、より好ましくは１２質量％以下、さらに好ましくは１０質量％以下である。

【００２８】

液状組成物中の成分（Ｂ）の含有量に対する成分（Ｃ）の含有量の質量比（（Ｃ）／（Ｂ））は、保液性および組成物の肌への転写性に優れるとともに、肌のべたつきを抑制し、肌のさらさら感の持続性に優れる観点から、好ましくは１００以上であり、より好ましくは２５０以上、さらに好ましくは４００以上、さらにより好ましくは６００以上である。
また、保液性および組成物の肌への転写性に優れるとともに、肌のべたつきを抑制し、肌のさらさら感の持続性を優れる観点から、上記質量比（（Ｃ）／（Ｂ））は、好ましくは１８００以下であり、より好ましくは１５００以下、さらに好ましくは９００以下、さらにより好ましくは８００以下である。

【００２９】

液状組成物中の成分（Ａ）の含有量に対する成分（Ｃ）の含有量の質量比（（Ｃ）／（

Ａ））は、保液性および組成物の肌への転写性に優れるともに、肌のさらさら感の持続性を優れる観点から、好ましくは０．１以上であり、より好ましくは０．２以上、さらに好ましくは０．３以上、さらにより好ましくは０．５以上である。

また、保液性および組成物の肌への転写性に優れるともに、肌のさらさら感の持続性を優れる観点から、上記質量比（（Ｃ）／（Ａ））は、好ましくは２０以下であり、より好ましくは１６以下、さらに好ましくは８以下、さらにより好ましくは５以下である。

【００３０】

（水）

液状組成物中の水の含有量は、たとえば液状組成物中の水以外の成分を除いた残部とすることができる。

また、液状組成物中の水の含有量は、シート状化粧料の保液性を向上する観点、および、肌への刺激感を抑制する観点から、液状組成物全体に対して好ましくは５０質量％以上であり、より好ましくは６０質量％以上、さらに好ましくは７０質量％以上、さらにより好ましくは８０質量％以上、殊更好ましくは８３質量％以上である。

【００３１】

また、シート状化粧料の保液性を向上する観点から、液状組成物中の成分水の含有量は、液状組成物全体に対して９８．９質量％未満であり、好ましくは９８質量％以下、より好ましくは９５質量％以下、さらに好ましくは９２質量％以下、さらにより好ましくは９０質量％以下である。

【００３２】

また、液状組成物は、成分（Ａ）～（Ｃ）以外の成分を含んでもよい。たとえば、液状組成物は以下の成分（Ｄ）をさらに含む。

【００３３】

（成分（Ｄ））

成分（Ｄ）はポリオールである。ただし、成分（Ｄ）から前述の成分（Ｂ）は除かれる。

成分（Ｄ）の炭素数は、保液性および組成物の肌への転写性に優れる観点から、好ましくは２以上、より好ましくは３以上であり、また、好ましくは８以下であり、より好ましくは６以下である。

【００３４】

また、成分（Ｄ）として、たとえば炭素数２以上８以下の多価アルコールおよびこれらの重合体が挙げられる。

炭素数２以上８以下の多価アルコールとして、具体的には、エチレングリコール、ジエチレングリコール、グリセリン、１，３－プロパンジオール、１，２－プロパンジオール、ソルビトール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、１，３－ブチレングリコール、イソプレングリコールおよびこれらの重合体からなる群から選択される１種または２種以上が挙げられる。

成分（Ｄ）の分子量は、たとえば２００以下であり、好ましくは１５０以下、さらにより好ましくは１００以下であり、また、たとえば５０以上である。

【００３５】

シート状化粧料の保液性を向上する観点から、成分（Ｄ）は、好ましくは１，３－ブチレングリコールおよびソルビトールのうち少なくとも１種である。

【００３６】

液状組成物中の成分（Ｄ）の含有量は、シート状化粧料の保液性を向上する観点から、液状組成物全体に対して好ましくは０．１質量％以上であり、より好ましくは０．３質量％以上、さらに好ましくは０．６質量％以上である。

一方、保液性および組成物の肌への転写性に優れる観点から、液状組成物中の成分（Ｄ）の含有量は、液状組成物全体に対して好ましくは２０質量％以下であり、より好ましくは１５質量％以下、さらに好ましくは１０質量％以下、さらにより好ましくは５質量％以下、殊更好ましくは２質量％以下である。

【００３７】
また、たとえば、液状組成物は以下の成分（Ｅ）をさらに含む。
（成分（Ｅ））
成分（Ｅ）は、界面活性剤である。
成分（Ｅ）として、具体的には、カチオン性界面活性剤、アニオン性界面活性剤、非イオン性界面活性剤および両性界面活性剤からなる群から選択される１種以上が挙げられる。シート状化粧料の保液性を向上する観点から、成分（Ｅ）は、好ましくは非イオン性界面活性剤である。
【００３８】
成分（Ｅ）として、たとえば、ポリオキシアルキレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシアルキレンソルビット脂肪酸エステル、ポリオキシアルキレングリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシアルキレン脂肪酸エステル、ポリオキシアルキレンアルキルエーテル、ポリオキシアルキレンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシアルキレン（硬化）ヒマシ油、ショ糖脂肪酸エステル、ポリグリセリンアルキルエーテル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、脂肪酸アルカノールアミド、アルキルグリコシドが挙げられる。
【００３９】
このうち、シート状化粧料の保液性を向上する観点、および、肌のべたつきを抑制する観点から、成分（Ｅ）は、好ましくはポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシアルキレンアルキルエーテル、アルキルグリコシド、ポリオキシアルキレンＣ８－Ｃ２０脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステルおよび脂肪酸アルカノールアミドからなる群から選択される１種または２以上であり、より好ましくはポリオキシアルキレンアルキルエーテルおよびポリオキシエチレン硬化ヒマシ油からなる群から選択される１以上の化合物であり、さらに好ましくはポリオキシエチレンラウリルエーテルおよびポリオキシエチレン硬化ヒマシ油からなる群から選択される１以上の化合物である。
【００４０】
より具体的には、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油におけるポリオキシエチレンの付加モル数は、シート状化粧料の保液性を向上する観点から、好ましくは１０以上であり、より好ましくは３０以上、より好ましくは５０以上であり、また、好ましくは１００以下であり、より好ましくは８０以下である。
ポリオキシアルキレンアルキルエーテルとしては、ポリオキシエチレンヘキシルデシルエーテル、ポリオキシエチレンオクチルドデシルエーテル、ポリオキシエチレンラウリルエーテル、ポリオキシエチレンセチルエーテル、ポリオキシエチレンステアリルエーテル、ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル等のポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシプロピレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレン・ポリオキシプロピレンアルキルエーテル等が挙げられる。ポリオキシアルキレンアルキルエーテルにおけるポリオキシアルキレンの付加モル数は、シート状化粧料の保液性を向上する観点から、好ましくは１以上であり、より好ましくは３以上、より好ましくは５以上であり、また、好ましくは１０以下であり、より好ましくは８以下である。
アルキルグリコシドとしては、アルキル基の炭素数８～１４で、糖（グルコース）の縮合度１～２のもの等が挙げられる。
ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステルとしては、ポリオキシエチレンソルビタンヤシ脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート等が挙げられる。
脂肪酸アルカノールアミドとしては、炭素数８～１８、中でも炭素数１０～１６のアシル基を有するものが好ましく、またモノアルカノールアミド、ジアルカノールアミドのいずれでもよいが炭素数２～３のヒドロキシアルキル基を有するものが好ましい。
脂肪酸アルカノールアミドの具体例としては、オレイン酸ジエタノールアミド、パーム核油脂肪酸ジエタノールアミド、ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド、ラウリン酸ジエタノールアミド、ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド、ヤシ油脂肪酸モノエタノールアミド、ラウリン酸モノイソプロパノールアミド、ラウリン酸モノエタノール

アミド、パーム核油脂肪酸メチルエタノールアミド、ヤシ油脂肪酸メチルエタノールアミド等が挙げられる。

【００４１】

液状組成物中の成分（Ｅ）の含有量は、シート状化粧料の保液性を向上する観点から、液状組成物全体に対して好ましくは０．０５質量％以上であり、より好ましくは０．１質量％以上、さらに好ましくは０．２質量％以上である。

また、肌のべたつきを抑制する観点から、液状組成物中の成分（Ｅ）の含有量は、液状組成物全体に対して２質量％以下であり、好ましくは１質量％以下、より好ましくは０．７質量％以下である。

【００４２】

また、液状組成物は、上述した成分以外の成分を含んでもよい。

たとえば液状組成物は、ｐＨ調整剤、防腐剤、着香剤、着色剤および冷感剤からなる群から選択される１種または２種以上を含んでもよい。

このうち、ｐＨ調整剤として、たとえばコハク酸、クエン酸、酒石酸等の有機酸およびその塩；リン酸等の無機酸およびその塩；水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、塩化アンモニウム等の塩基が挙げられる。

【００４３】

液状組成物のｐＨは、肌への刺激性を低減する観点から、好ましくは４．５以上であり、より好ましくは６．５以上であり、また、好ましくは８．５以下であり、より好ましくは８．０以下である。

【００４４】

（織布または不織布）

織布または不織布は、具体的にはシート状化粧料の基材となる。

織布または不織布の材料として、具体的には、リヨセル、キュプラ、レーヨン、アセテート、アクリル、ポリエチレンテレフタレート（ＰＥＴ）等のポリエステル、ポリエチレン（ＰＥ）、ポリプロピレン（ＰＰ）、ポリウレタン、ポリアミド、コットン、パルプおよびこれらを混綿したものが挙げられる。

シート状化粧料の保液性および液状組成物の肌への転写性のバランスを向上する観点から、織布または不織布は、好ましくはコットン、レーヨン、ＰＥ、ＰＰおよびＰＥＴからなる群から選択される１または２以上の材料を含む。

【００４５】

シート状化粧料は、シート状化粧料の保液性および液状組成物の肌への転写性のバランスを向上する観点から、好ましくは液状組成物を不織布に含浸させたものであり、かかる不織布が好ましくは親水性繊維を含む混合繊維からなる。

不織布が親水性繊維と他の繊維との混合繊維である例として、たとえば、パルプ、レーヨンおよびコットンの少なくとも１つが、ＰＥ、ＰＰ、ＰＥＴ等の熱可塑性樹脂で強化されたシート等が挙げられる。このとき、パルプ、レーヨン、コットンおよび熱可塑性樹脂の割合において、パルプ、レーヨンおよびコットンの合計が全体に占める質量比は、シート状化粧料の保液性および液状組成物の肌への転写性のバランスを向上する観点から、好ましくは２０質量％以上であり、より好ましくは３０質量％以上、より好ましくは４０質量％以上であり、また、好ましくは８０質量％以下であり、より好ましくは７０質量％以下、さらに好ましくは６０質量％以下である。

【００４６】

また、織布または不織布の材料がパルプであるとき、やわらかさと強度との両立の観点から、薄いパルプを重ね合わせて用いることが好ましく、さらに熱可塑性樹脂で強化したパルプは、エンボス処理により適度な厚さ（嵩高さ）を付与でき、かつ肌を濡らしすぎないので好ましい。さらに、ヒートシールにより複数枚のシートを部分的に貼り合わせることで、柔らかく、拭きごたえのある厚さのあるシートにより良好な使用感を提供できる。

【００４７】

織布または不織布の平均坪量は、液状組成物の保持性や、清拭時の感触が良好である観

点から、好ましくは２０ｇ／ｍ^{2}以上であり、より好ましくは３０ｇ／ｍ^{2}以上、さらに好ましくは４０ｇ／ｍ^{2}以上である。
同様の観点から、織布または不織布の平均坪量は、好ましくは１５０ｇ／ｍ^{2}以下であり、より好ましくは１００ｇ／ｍ^{2}以下である。また、組成物の肌への転写性向上の観点から、織布または不織布の平均坪量は、好ましくは７０ｇ／ｍ^{2}以下であり、より好ましくは５０ｇ／ｍ^{2}以下である。
なお、平均坪量は、ＪＩＳ　Ｌ　１９１３に準拠し、不織布を一定面積の寸法に切り出してその質量（ｇ）を測定し、これを１ｍ^{2}の質量に換算して求めることができる。

【００４８】

織布または不織布の厚さは、液状組成物の保持性を向上する観点、および、清拭時に良好な使用感を与える観点から、好ましくは０．１５ｍｍ以上であり、より好ましくは０．３０ｍｍ以上である。
同様の観点から、織布または不織布の厚さは、好ましくは１．３０ｍｍ以下であり、より好ましくは０．９０ｍｍ以下である。
ここで、織布または不織布の厚さは、押圧２０ｇｆ／ｃｍ^{2}荷重のダイアルゲージによる測定により得られる。

【００４９】

織布または不織布は、具体的にはシート状であり、顔等の肌を清拭しやすい形状および大きさとすることが好ましい。
上記の観点から、織布または不織布の形状は、具体的にはシート状である。また、織布または不織布の平面形状は、たとえば矩形状とすることができる。矩形の一片の長さは、たとえば３～３０ｃｍ程度、好ましくは５～２０ｃｍ程度である。

【００５０】

次に、シート状化粧料の製造方法を説明する。
シート状化粧料の製造方法は、たとえば、液状組成物と、シート基材となる織布または不織布とを準備する工程と、液状組成物を織布または不織布に含浸させる工程と、を含む。
液状組成物を含浸させる工程において、含浸方法に制限はなく、たとえば、スプレーやエアーガン等を用いて液状組成物をシート基材に噴霧して含浸させる方法や、スリット型のノズル等を用いて液状組成物を直接シート基材に塗布して含浸させる方法が挙げられる。

【００５１】

液状組成物の含浸率は、拭き取り後の爽快感の観点から、織布または不織布の質量に対して好ましくは１８０質量％以上であり、より好ましくは２００質量％以上、さらに好ましくは２３０質量％以上である。
また、清拭後の速乾の観点から、液状組成物の含浸率は、織布または不織布の質量に対して好ましくは５５０質量％以下であり、より好ましくは５００質量％以下、さらに好ましくは４７０質量％以下、さらにより好ましくは４５０質量％以下である。

【００５２】

本実施形態において得られるシート状化粧料は、たとえば、シート状洗浄材として好適に用いることができる。

【００５３】

また、本実施形態において得られるシート状化粧料は、たとえば素肌に適用してもよいし、また、たとえば、メイクが施された肌をシート状化粧料で清拭するステップを含む、スキンケア方法に用いることもできる。

【００５４】

（包装体）
本実施形態において、包装体は、たとえば本実施形態におけるシート状化粧料が包装材に収容されているものであり、好ましくは密封されたものである。
包装体の材料に制限はなく、たとえばアルミシート（アルミ箔）やシリカ蒸着フィルム

等のバリア層を挟んでその表裏両面をたとえばポリエチレン、ポリエチレンテレフタラート、ポリプロピレン、ポリエステル、ポリアミド、ポリ塩化ビニル等により構成された合成樹脂フィルム層で覆った積層フィルム等とすることができる。
　また、包装体の形状に制限はなく、たとえばピロー袋、ガゼット袋、パウチ、箱、ボトル、ジャー等とすることができる。
　１つの包装材内に、１枚のシート状化粧料が収容されていてもよいし、２枚以上のシート状化粧料が収容されていてもよい。また、１つの包装材内に、２枚以上のシート状化粧料が連結した状態で収容されていてもよい。このとき、たとえば不織布にミシン目が設けられていてよく、使用する分のシート状化粧料をミシン目に沿って切り取って用いることができる。
　シート状化粧料は、たとえば折りたたんだ状態または巻いた状態で収納される。

【００５５】

　上述した実施形態に関し、本発明はさらに以下のシート状化粧料、シート状洗浄材および包装材を開示する。

＜１＞　以下の成分（Ａ）～（Ｃ）および水を含有する液状組成物を織布または不織布に含浸させた、シート状化粧料。
（Ａ）エタノール　０．１質量％以上２０質量％以下
（Ｂ）水溶性高分子
（Ｃ）比表面積が５０m^2／ｇ以上のシリカ　１質量％以上２０質量％以下

【００５６】

＜２＞　前記液状組成物中の前記成分（Ｂ）の含有量が、前記液状組成物全体に対して好ましくは０．００１質量％以上であり、より好ましくは０．００３質量％以上、さらに好ましくは０．００４質量％以上、さらにより好ましくは０．００５質量％以上であり、また、好ましくは１質量％以下であり、より好ましくは０．１質量％以下、さらに好ましくは０．０５質量％以下、さらにより好ましくは０．０２質量％以下である、＜１＞に記載のシート状化粧料。
＜３＞　前記成分（Ｂ）がアニオン性高分子を含む、＜１＞または＜２＞に記載のシート状化粧料。
＜４＞　前記成分（Ｂ）が、カルボキシビニルポリマーおよびアクリレーツ／アクリル酸アルキル（Ｃ１０－３０）クロスポリマーからなる群から選択される少なくとも１種を含む、＜１＞乃至＜３＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
＜５＞　前記液状組成物中の前記成分（Ｂ）の含有量に対する前記成分（Ｃ）の含有量の質量比（（Ｃ）／（Ｂ））が好ましくは１００以上であり、より好ましくは２５０以上、さらに好ましくは４００以上、さらにより好ましくは６００以上であり、また、好ましくは１８００以下であり、より好ましくは１５００以下、さらに好ましくは９００以下、さらにより好ましくは８００以下である、＜１＞乃至＜４＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
＜６＞　前記液状組成物中の前記成分（Ａ）の含有量に対する前記成分（Ｃ）の含有量の質量比（（Ｃ）／（Ａ））が好ましくは０．１以上であり、より好ましくは０．２以上、さらに好ましくは０．３以上、さらにより好ましくは０．５以上であり、また、好ましくは２０以下であり、より好ましくは１６以下、さらに好ましくは８以下、さらにより好ましくは５以下である、＜１＞乃至＜５＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
＜７＞　以下の成分（Ｄ）をさらに含む、＜１＞乃至＜６＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
（Ｄ）ポリオール　液状組成物全体に対して好ましくは０．１質量％以上であり、より好ましくは０．３質量％以上、さらに好ましくは０．６質量％以上であり、また、好ましくは２０質量％以下であり、より好ましくは１５質量％以下、さらに好ましくは１０質量％以下、さらにより好ましくは５質量％以下、殊更好ましくは２質量％以下
＜８＞　前記液状組成物中の前記成分（Ａ）の含有量が、前記液状組成物全体に対して好ましくは１質量％以上であり、より好ましくは２質量％以上、さらに好ましくは３質量％

以上であり、また、好ましくは１５質量％以下であり、より好ましくは１０質量％以下、さらに好ましくは７質量％以下である、＜１＞乃至＜７＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
＜９＞　前記液状組成物中の前記成分（Ｃ）の含有量が、前記液状組成物全体に対して好ましくは２質量％以上であり、より好ましくは４質量％以上、さらに好ましくは６質量％以上であり、また、好ましくは１５質量％以下であり、より好ましくは１２質量％以下、さらに好ましくは１０質量％以下である、＜１＞乃至＜８＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
＜１０＞　前記成分（Ｃ）の比表面積が、好ましくは１００m^2／ｇ以上であり、より好ましくは１５０m^2／ｇ以上、さらにより好ましくは２００m^2／ｇ以上であり、また、好ましくは１５００m^2／ｇ以下であり、より好ましくは１０００m^2／ｇ以下、さらに好ましくは６００m^2／ｇ以下である、＜１＞乃至＜９＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
＜１１＞　前記成分（Ｃ）の平均粒子径が、好ましくは０．１μｍ以上であり、より好ましくは１μｍ以上、さらに好ましくは３μｍ以上であり、また、好ましくは３０μｍ以下であり、より好ましくは２０μｍ以下、さらに好ましくは１０μｍ以下である、＜１＞乃至＜１０＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
＜１２＞　前記液状組成物中の前記水の含有量が、前記液状組成物全体に対して好ましくは５０質量％以上であり、より好ましくは６０質量％以上、さらに好ましくは７０質量％以上、さらにより好ましくは８０質量％以上、殊更好ましくは８３質量％以上であり、また、９８．９質量％未満であり、好ましくは９８質量％以下、より好ましくは９５質量％以下、さらに好ましくは９２質量％以下、さらにより好ましくは９０質量％以下である、＜１＞乃至＜１１＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
＜１３＞　以下の成分（Ｅ）をさらに含む、＜１＞乃至＜１２＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
（Ｅ）界面活性剤
＜１４＞　成分（Ｅ）が好ましくは非イオン性界面活性剤であり、より好ましくはポリオキシエチレンラウリルエーテルおよびポリオキシエチレン硬化ヒマシ油からなる群から選択される１以上の化合物である、＜１３＞に記載のシート状化粧料。
＜１５＞　前記液状組成物中の前記成分（Ｅ）の含有量が、前記液状組成物全体に対して好ましくは０．０５質量％以上であり、より好ましくは０．１質量％以上、さらに好ましくは０．２質量％以上であり、また、好ましくは２質量％以下であり、好ましくは１質量％以下、より好ましくは０．７質量％以下である、＜１３＞または＜１４＞に記載のシート状化粧料。
＜１６＞　当該シート状化粧料が前記液状組成物を前記不織布に含浸させたものであり、
　前記不織布が親水性繊維を含む混合繊維からなる、＜１＞乃至＜１５＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
＜１７＞　前記液状組成物の含浸率が、前記繊布または前記不織布の質量に対して好ましくは１８０質量％以上であり、より好ましくは２００質量％以上、さらに好ましくは２３０質量％以上であり、また、好ましくは５５０質量％以下であり、より好ましくは５００質量％以下、さらに好ましくは４７０質量％以下、さらにより好ましくは４５０質量％以下である、＜１＞乃至＜１６＞いずれか１つに記載のシート状化粧料。
＜１８＞　＜１＞乃至＜１７＞いずれか１つに記載のシート状化粧料からなるシート状洗浄材。
＜１９＞　＜１＞乃至＜１７＞いずれか１つに記載のシート状化粧料が包装材内に収容されている、包装体。
【００５７】
　以上、本発明の実施形態について述べたが、これらは本発明の例示であり、上記以外の様々な構成を採用することもできる。
【実施例】

【００５８】
（実施例１～３１、比較例１および２）
以下の方法で表１～表６に示す配合で各例の液状組成物を調製し、これを不織布に含浸させて、各例のシート状化粧料を得た。
ここで、表１～表６において、各成分の量はアクティブ量（単位：質量％）である。
【００５９】
（液状組成物の調製方法）
水相に各成分を投入して各例の液状組成物を調製した。
【００６０】
（シート状化粧料の製造方法）
不織布に各例で得られた液状組成物をまんべんなく染み込ませた後、液をなじませて均一に含浸させた。液状組成物の含浸率は、実施例１６、１７および２８～３１以外の例（表１～５）では３００質量％とし、実施例１６および１７（表６）では３５０質量％とした。実施例２８～３１（表６）では、それぞれ、含浸率を２００質量％、２５０質量％、４００質量％および４５０質量％とした。
各例で用いた不織布は以下の通りである。
実施例１～１１、１４～１７、１９～３１、比較例１、比較例２（表１、表２、表４～表６）：不織布１（ＡＳ－４０、大和紡績社製、レーヨン／ＰＰ・ＰＥ＝８０／２０、９ｃｍ×１２ｃｍ、平均厚さ０．４５±０．０４ｍｍ、平均坪量４０ｇ／m^2）
実施例１２（表３）：不織布２（コットエースＣ０４５Ｒ／Ａ０２、ユニチカ社製、コットン１００％、９ｃｍ×１２ｃｍ、平均厚さ０．３５±０．０８ｍｍ、平均坪量４５ｇ／m^2）
実施例１３（表３）：不織布３（エスコットＣＯ６０Ｐ／Ａ０１、ユニチカ社製、コットン／ＰＥＴ／ＰＥ＝５０／３１／１９、９ｃｍ×１２ｃｍ、平均厚さ０．４８±０．０７ｍｍ、平均坪量６０ｇ／m^2）
実施例１８（表１）：不織布４（ＰＴ－５０、大和紡績社製、レーヨン／ＰＰ・ＰＥ＝８０／２０、９ｃｍ×１２ｃｍ、厚さ０．３６ｍｍ、平均坪量５０ｇ／m^2）
【００６１】
（評価方法）
表１～表６に記載の各例で得られたシート状化粧料について、シートの液保持性、肌への化粧料中の粉体の転写性、肌のべたつき除去効果、肌のさらさら感の持続およびメイクの皮脂によるテカリ抑制を以下の方法で評価した。液保持性以外の各項目について、評価値２点以上を合格とした。評価結果を表１～表４に示す。
【００６２】
（シートの液保持性）
各例のシート状化粧料を４回折って１６つ折りにして絞り、絞り出された液質量（ｇ）を測定した。液質量が小さいほど、液状組成物の染み出し量が少なく、液保持性に優れる。
ここで、１６つ折りは、シート状化粧料の長辺が半分になるよう２つに折り（１回目、２つ折り）、２つ折りされたものの長辺が半分になるよう２つに折り（２回目、４つ折り）、４つ折りされたものの長辺が半分になるよう２つに折り（３回目、８つ折り）、さらに８つ折りされたものの長辺が半分になるよう２つに折る（４回目、１６つ折り）ことによりおこなった。
【００６３】
（肌への化粧料中の粉体の転写性）
各例で得られたシート状化粧料で素肌（頬部）を清拭し、清拭直後の肌への粉体の転写性を触感官能評価した。評価は、専門パネリスト２名が以下の基準に従っておこない、平均点を算出した。
０：素肌と同等
１：弱いさらさら

２：やや弱いさらさら
３：さらさらする
４：やや強いさらさら
５：強いさらさら
【００６４】
（肌のべたつき除去効果）
　各例で得られたシート状化粧料で素肌（頬部）を清拭し、清拭直後の肌のべたつき感を触感官能評価した。評価は、専門パネリスト２名が以下の基準に従っておこない、平均点を算出した。
１：べたつく
２：ややべたつく
３：べたつかない
【００６５】
（肌のさらさら感の持続）
　各例で得られたシート状化粧料で素肌（頬）を清拭し、清拭３時間後の肌のさらさら感を触感官能評価した。評価は、専門パネリスト２名が以下の基準に従っておこない、平均点を算出した。
０：素肌と同等
１：弱いさらさら
２：やや弱いさらさら
３：さらさらする
４：やや強いさらさら
５：強いさらさら
【００６６】
（メイクの皮脂によるテカリ抑制）
　リキッドファンデーション（セザンヌ化粧品社製、セザンヌクリーミィファンデーションナチュラルカバータイプ）を顔肌に塗布し、３０分乾燥後に、各例で得られたシート状化粧料で押さえ、３時間経過後にテカリの有無を目視官能評価した。
０：強いテカリが確認される
１：テカリが確認される
２：ややテカリが確認される
３：わずかにテカリが確認される
４：極わずかにテカリが確認される
５：テカリが確認されない
【００６７】

【表１】

表1

			実施例 1	実施例 2	実施例 3	実施例 4	実施例 5	実施例 6	実施例 7	実施例 8	実施例 9	実施例 18	実施例 19	実施例 20	実施例 21	実施例 22	実施例 23	実施例 24	実施例 25	実施例 26	比較例 1	比較例 2
(質量%)	(A)	エタノール	5.000	5.000	5.000	5.000	5.000	5.000	7.000	5.000	5.000	5.000	10.000	10.000	0.500	0.750	5.000	5.000	5.000	5.000	5.000	5.000
	(B)	アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体 ＊1	0.010	0.010	0.010		0.005	0.020	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010					0.010	0.010
		アクルーツ/アクリル酸アルキル(C10-30)クロスポリマー ＊2																				
		カチオン化セルロース ＊10				0.010											0.010	0.010				
		ポリエチレングリコール ＊11																	0.010	0.010		
	(C)	シリカ1 ＊3	7.000	5.000	9.000	7.000	7.000	7.000	7.000	7.000	7.000	7.000	1.000	3.000	9.000	7.000	7.000	7.000	7.000	7.000		
	その他	シリカ2 ＊4																			7.000	
	(D)	1,3-ブチレングリコール	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000			1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
		ソルビトール								0.500												
	(E)	ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油(60E.O.) ＊5	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500		0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500
		ポリオキシエチレンラウリルエーテル(6E.O.) ＊6	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050		0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050
	その他	水酸化カリウム液(48%)	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.100	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
		精製水	86.430	88.430	84.430	86.430	86.435	86.420	84.430	86.930	87.890	86.430	87.430	85.430	88.930	90.680	86.430	86.430	86.430	86.430	86.430	93.430
		合計	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000
		(A)総量	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	7.00	5.00	5.00	5.00	10.00	10.00	0.50	0.75	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		(B)総量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
		(C)総量	7.00	5.00	9.00	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00	1.00	3.00	9.00	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00	0.00
		(D)総量	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.50	0.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
		(E)総量	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.00	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55
		(C)/(B)	700	500	900	700	1400	350	700	700	700	700	100	300	900	700	700	700	700	700	-	-
		(C)/(A)	1.4	1	1.8	1.4	1.4	1.4	1	1.4	1.4	1.4	0.1	0.3	18	15	1.4	1.4	1.4	1.4	-	-
評価		シートの保湿持性（液の染み出し量 g）	0.16	0.28	0.06	0.15	0.23	0.16	0.22	0.15	0.18	0.21	0.52	0.32	0.06	0.17	0.15	0.16	0.16	0.15	0.5	0.62
		肌への化粧料中の粉体の転写性	4	3	5	4	4	4	4	4	4	3	2	2	5	4	4	4	4	4	3	0
		肌のパたつき除去効果	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	2
		肌のさらさら感の持続	3	2	4	3	3	3	3	3	3	2	2	2	4	3	3	3	3	3	1	0
		メイクの皮脂による テカリ抑制	3	2	4	3	3	3	3	3	3	2	2	2	4	3	3	3	3	3	1	0

【００６８】

【表２】

表2

			実施例	実施例
			10	11
（質量%）	(A)	エタノール	5.000	5.000
	(B)	アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体 ＊1	0.010	0.010
	(C)	シリカ3 ＊7	7.000	
		シリカ4 ＊8		7.000
	(D)	1,3-ブチレングリコール	1.000	1.000
	(E)	ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油(60E.O.) ＊5	0.500	0.500
		ポリオキシエチレンラウリルエーテル(6E.O.) ＊6	0.050	0.050
	その他	水酸化カリウム液(48%)	0.010	0.010
		精製水	86.430	86.430
		合計	100.000	100.000
		(A)総量	5.00	5.00
		(B)総量	0.01	0.01
		(C)総量	7.00	7.00
		(D)総量	1.00	1.00
		(E)総量	0.55	0.55
(C)/(B)			700	700
(C)/(A)			1.4	1.4
評価		シートの液保持性(液の染み出し量 g)	0.48	0.30
		肌への化粧料中の粉体の転写性	3	3
		肌のべたつき除去効果	3	3
		肌のさらさら感の持続	2	2
		メイクの皮脂によるテカリ抑制	2	2

【００６９】

【表３】

表3

			実施例	実施例
			12	13
（質量%）	(A)	エタノール	5.000	5.000
	(B)	アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体 ＊1	0.010	0.010
	(C)	シリカ1 ＊3	7.000	7.000
	(D)	1,3-ブチレングリコール	1.000	1.000
	(E)	ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油(60E.O.) ＊5	0.500	0.500
		ポリオキシエチレンラウリルエーテル(6E.O.) ＊6	0.050	0.050
	その他	水酸化カリウム液(48%)	0.010	0.010
		精製水	86.430	86.430
		合計	100.000	100.000
		(A)総量	5.00	5.00
		(B)総量	0.01	0.01
		(C)総量	7.00	7.00
		(D)総量	1.00	1.00
		(E)総量	0.55	0.55
(C)/(B)			700	700
(C)/(A)			1.4	1.4
評価		シートの液保持性(液の染み出し量 g)	0.12	0.13
		肌への化粧料中の粉体の転写性	3	2
		肌のべたつき除去効果	3	3
		肌のさらさら感の持続	2	2
		メイクの皮脂によるテカリ抑制	2	2

【００７０】

【表４】

表4

			実施例
			14
（質量％）	（Ａ）	エタノール	5.000
	（Ｂ）	カルボマー　＊９	0.010
	（Ｃ）	シリカ1　＊３	7.000
	（Ｄ）	1,3-ブチレングリコール	1.000
	（Ｅ）	ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油（60E.O.）　＊５	0.500
		ポリオキシエチレンラウリルエーテル（6E.O.）　＊６	0.050
	その他	水酸化カリウム液（48％）	0.010
		精製水	86.430
		合計	100.000
		（Ａ）総量	5.00
		（Ｂ）総量	0.01
		（Ｃ）総量	7.00
		（Ｄ）総量	1.00
		（Ｅ）総量	0.55
（Ｃ）／（Ｂ）			700
（Ｃ）／（Ａ）			1.40
評価		シートの液保持性（液の染み出し量　ｇ）	0.17
		肌への化粧料中の粉体の転写性	4
		肌のべたつき除去効果	3
		肌のさらさら感の持続	3
		メイクの皮脂によるテカリ抑制	3

【００７１】

【表５】

表5

			実施例	実施例
			15	27
（質量%）	(A)	エタノール	5.000	5.000
	(B)	アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体　＊1	0.010	0.010
	(C)	シリカ1　＊３	3.000	2.000
	(D)	1,3-ブチレングリコール	1.000	1.000
	(E)	ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油(60E.O.)　＊５	0.500	0.500
		ポリオキシエチレンラウリルエーテル(6E.O.)　＊６	0.050	0.050
	その他	水酸化カリウム液(48%)	0.010	0.010
		精製水	90.430	91.430
		合計	100.000	100.000
		(A)総量	5.00	5.00
		(B)総量	0.01	0.01
		(C)総量	3.00	2.00
		(D)総量	1.00	1.00
		(E)総量	0.55	0.55
(C)/(B)			300	200
(C)/(A)			0.6	0.4
評価		シートの液保持性(液の染み出し量 g)	0.38	0.43
		肌への化粧料中の粉体の転写性	2	2
		肌のべたつき除去効果	3	3
		肌のさらさら感の持続	2	2
		メイクの皮脂によるテカリ抑制	2	2

【００７２】

【表６】

表6

			実施例	実施例	実施例	実施例	実施例	実施例
			16	17	28	29	30	31
（質量%）	(A)	エタノール	5.000	5.000	5.000	5.000	5.000	5.000
	(B)	アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体 ＊1	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
	(C)	シリカ1 ＊3	7.000	3.000	7.000	7.000	7.000	7.000
	(D)	1,3-ブチレングリコール	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	1.000
	(E)	ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油(60E.O.) ＊5	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500
		ポリオキシエチレンラウリルエーテル(6E.O.) ＊6	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050
	その他	水酸化カリウム液(48%)	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
		精製水	86.430	90.430	86.430	86.430	86.430	86.430
		合計	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000
		(A)総量	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		(B)総量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
		(C)総量	7.00	3.00	7.00	7.00	7.00	7.00
		(D)総量	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
		(E)総量	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55
(C)/(B)			700	300	700	700	700	700
(C)/(A)			1.4	0.6	1.4	1.4	1.4	1.4
評価		シートの液保持性(液の染み出し量 g)	0.34	0.55	0.00	0.02	0.50	0.63
		肌への化粧料中の粉体の転写性	4	3	2	3	5	5
		肌のべたつき除去効果	3	3	3	3	3	4
		肌のさらさら感の持続	3	3	2	3	4	4
		メイクの皮脂によるテカリ抑制	3	3	2	3	4	4

【００７３】

表１～表６で用いた成分の詳細を以下に示す。

＊１　アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体：ＰＥＭＵＬＥＮ　ＴＲ－１、Ｌｕｂｒｉｚｏｌ社製

＊２　アクリレーツ／アクリル酸アルキル（Ｃ１０－３０）クロスポリマー：カーボポールＥＴＤ２０２０、Ｌｕｂｒｉｚｏｌ社製

＊３　シリカ１：ＳＩＬＩＣＡ　ＭＩＣＲＯ　ＢＥＡＤ　ＬＢ－１５００、日揮触媒化成社製、比表面積３１０ｍ^2／ｇ、平均粒子径５μｍ

＊４　シリカ２：ＣＨＩＦＦＯＮＳＩＬ　Ｐ－３Ｒ、日揮触媒化成社製、比表面積２ｍ^2／ｇ、平均粒子径５μｍ

＊５　ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油（６０Ｅ．Ｏ．）：ＣＨ－６０Ｋ、花王社製

＊６ポリオキシエチレンラウリルエーテル（６Ｅ．Ｏ．）：エマルゲン１０８、花王社製

＊７　シリカ３：サンスフェアＨ－５１、ＡＧＣエスアイテック社製、比表面積８００ｍ^2／ｇ、平均粒子径５μｍ

＊８　シリカ４：ＳＡＴＩＮＩＥＲ　Ｍ５、日揮触媒化成社製）、比表面積１７０ｍ^2／ｇ、平均粒子径５μｍ

＊９　カルボマー：Ｃａｒｂｏｐｏｌ　９８０　Ｐｏｌｙｍｅｒ、Ｌｕｂｒｉｚｏｌ社製

＊１０　カチオン化セルロース：各例において、以下とした。

（実施例２３）カチオン化ヒドロキシエチルセルロース：カチセロＭ－８０、花王社製

（実施例２４）カチオン化ヒドロキシプロピルセルロース：ソフケアＣ－ＨＰ２－Ｗ、花王社製

＊１１　ポリエチレングリコール：各例において、以下とした。

（実施例２５）ポリエチレングリコール：ＰＯＬＹＧＬＹＫＯＬ　８０００　Ｓ、クラリアントジャパン社製

（実施例２６）ポリエチレングリコール：ＰＥＧ－２００００、三洋化成工業株式会社製

【００７４】

表１～表６より、各実施例で得られたシート状化粧料においては、シートの液保持性、肌への化粧料中の粉体の転写性、肌のべたつき除去効果、肌のさらさら感の持続、および

、メイクの皮脂によるテカリ抑制の各効果のバランスに優れていた。

フロントページの続き

Ｆターム（参考） C122 AC131 AC132 AC182 AC432 AD041 AD042 AD091 AD092 AD261 AD262 BB33 BB36 CC23 CC24 DD12 EE06 EE07